

## 九州初記録ならびに分布北限記録更新のセスジタカサゴイシモチ

岩坪洗樹<sup>1</sup>・橋口 亘<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup><sup>1</sup> 〒 892-0847 鹿児島市西千石町 11-21 鹿児島 MS ビル 鹿児島水圏生物博物館<sup>2</sup> 〒 898-0101 鹿児島県南さつま市坊津町坊 9424-1 坊津歴史資料センター輝津館<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## ■ はじめに

スズキ目タカサゴイシモチ科魚類 (Perciformes: Ambassidae) は日本国内から 6 種が知られており、いずれも標準体長が最大でも 10 cm に満たない小型種である (宮原, 2009; 林, 2013)。そのうちセスジタカサゴイシモチ *Ambassis miops* Günther, 1871 は、琉球列島に広く分布し (米沢, 2003; 宮原, 2009; 林, 2013; Motomura and Harazaki, 2017 など)、河口の汽水域に生息することが知られている (宮原, 2009; 林, 2013)。また、セスジタカサゴイシモチはこれまでに屋久島が分布の北限とされていた (米沢, 2003; Motomura et al., 2010; Motomura and Harazaki, 2017)。

2016 年 12 月 20 日に鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川から 1 個体のセスジタカサゴイシモチが採集された。これはセスジタカサゴイシモチの九州からの標本に基づく初記録であると同時に、同種の分布北限記録の更新となる。そのため、得られた標本を記載しここに報告する。

## ■ 材料と方法

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で行い、計測

値は体長に対する百分率で示した。対鰭鰭条数は左体側のものを計数した。鮮時のセスジタカサゴイシモチの体色は、KAUM-I. 200555 のカラー写真に基づいて記載した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、その標本のカラー写真は同館と鹿児島水圏生物博物館のデータベースに登録されている。

## ■ 結果と考察

*Ambassis miops* Günther, 1871

セスジタカサゴイシモチ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 200555, 体長 24.2 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川の河口から約 40 m 地点 (31°17'53"N, 130°13'20"S), タモ網, 水深 1 m, 2016 年 12 月 20 日, 岩坪洗樹・橋口 亘。

記載 背鰭条数 VII-I, 9; 臀鰭条数 III, 10; 胸鰭条数 13; 腹鰭条数 I, 5; 頬部鱗列数 2; 背鰭前方鱗数 14; 縦列鱗数 28。体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り: 頭長 38.8; 最大体高 36.8; 最大体幅 15.3; 吻長 9.5; 主上顎骨長 16.5; 眼径 14.5; 両眼間隔 10.3; 背鰭前長 48.3; 第 1 背鰭第 1 棘長 4.5; 第 1 背鰭第 2 棘長 28.1; 第 1 背鰭第 3 棘長 28.1; 第 1 背鰭第 4 棘長 23.1; 第 1 背鰭第 5 棘長 16.9; 第 2 背鰭第 1 棘長 19.4; 背鰭最長軟条長 18.2; 臀鰭前長 68.2; 臀鰭基底長 25.2; 臀鰭第 1 棘長 4.5; 臀鰭第 2 棘長 19.4; 臀鰭第 3 棘長 21.5; 臀鰭最終軟条長 19.0; 尾柄長 15.3; 尾柄高 15.3; 胸鰭長 30.6; 腹鰭棘長 18.6; 腹鰭軟条

Iwatsubo, H., W. Hashiguchi and H. Motomura. 2017. Northernmost and first record of *Ambassis miops* (Perciformes: Ambassidae) from Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 101-103.

✉ HI: Kagoshima Museum of Aquatic Biodiversity, Kagoshima MS Building, 11-21 Nishisengoku, Kagoshima 892-0847, Japan (e-mail: k8878027@kadai.jp).



Fig. 1. Photograph of fresh specimen of *Ambassis miops* from Hakata River, Kushi, Bonotsu, Minami-satsuma, Kagoshima, southern Japan (KAUM-I. 200555, 24.2 mm SL).

長 19.4 ; 尾鰭長 42.6.

体は側面からみたときに前後方向に長い長楕円形で、よく側偏する。体高は背鰭始部で最大になる。吻端は尖り、下顎が上顎よりやや突出する。主上顎骨後端は瞳孔中央直下にわずかに達しない。鼻孔は左右各2つあり、前鼻孔と後鼻孔はほぼ同大。前鰓蓋骨後縁は円滑で、下縁は明瞭な鋸歯状である。頭部背縁の輪郭は緩やかな弧状である。側線は完全で、主鰓蓋骨上端直後から始まり、尾柄後端まで続く。眼はほぼ正円形を呈する。背鰭は2基で、第1背鰭が第2背鰭より高い。第1背鰭は第1棘が最短で、第2棘と第3棘が最長である。その後、後方のもほど短くなる。第2背鰭は第1軟条が最長で、後方のもほど徐々に短くなる。臀鰭始部は第2背鰭第1軟条直下に位置する。臀鰭は第1棘が最短で、第3棘が第2棘よりわずかに長く最長である。臀鰭軟条は第1軟条が最長で、後方のもほど徐々に短くなる。腹鰭基底は主鰓蓋骨後端直下に位置する。尾鰭は二又し、両葉後端は丸い。

**色彩** 鮮時の体色 (Fig. 1) : 頭部と体部の地色はそれぞれ乳白色で、体部背縁が緑色を帯びた橙色を呈する。頬部から主鰓蓋骨にかけてと、腹部

は銀白色。頭部と体部の背側に黒色点が散在する。体側面の各鱗の後縁は緑色を帯びた橙色を呈する。側線に沿って黒色線が走る。眼は虹彩が黄色で、上縁が黒色を呈する。背鰭は透明で、第1背鰭第2-3棘が橙色を呈し、その間の鱗膜に黒色点が密に散在する。臀鰭は透明で、黒色点がわずかに散在する。胸鰭と腹鰭は透明。尾鰭は橙色で、後縁が黒色を呈する。

**分布** セスジタカサゴイシモチは台湾、香港、およびフィリピンなどの西太平洋に分布する(林, 2013 ; Koeda, 2017)。日本国内からは、鹿児島県南さつま市(本報告)、屋久島(米沢, 2003 ; Motomura et al., 2010 ; Motomura and Harazaki, 2017)、種子島(米沢, 2003)、奄美大島(林, 2013)、久米島(吉郷・中村, 2003)、石垣島(林, 2013)、西表島(宮原, 2009 ; 林, 2013)、および与那国島(吉郷・中村, 2003 ; Koeda et al., 2016)から記録されている。

**備考** 鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川から採集された標本は、縦列鱗数が28、頬部鱗列数が2、背鰭前方鱗数が14、前鰓蓋骨下縁が明瞭な鋸歯状であること、側線が完全であること、頭部背縁の輪郭が緩やかな弧状であること、尾鰭

後縁が黒色であることなどから、林 (2013) が示したセスジタカサゴイシモチ *Ambassis miops* の標徴とよく一致した。

セスジタカサゴイシモチは日本国内では、屋久島、種子島、奄美大島、石垣島、西表島、および与那国島から記録されている (米沢, 2003; 宮原, 2009; Motomura et al., 2010; 林, 2013; Koeda et al., 2016; Motomura and Harazaki, 2017)。したがって、鹿児島県南さつま市博多川から採集された1標本は、セスジタカサゴイシモチの九州からの標本に基づく初めての記録であり、国内において離島以外からの初めての記録でもある。さらに、これまでセスジタカサゴイシモチの分布北限は屋久島であったが (米沢, 2003; Motomura et al., 2010; Motomura and Harazaki, 2017), 鹿児島県南さつま市からの標本は本種の分布の北限を約100 km 更新した記録となる。

セスジタカサゴイシモチは河口や汽水域に生息することが知られている (宮原, 2009; 林, 2013)。本報告での採集地点も、最大川幅約3 m 程度の小規模河川であるが、河口に近く潮汐の影響を受ける場所であった。

## 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、田代郷国氏 (鹿児島大学連合農学研究科) には標本計測に協力いただいた。鹿児島大学魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまには標本整理などのご協力をいただいた。以上の諸氏に対して深く感謝の意を表す。なお本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と鹿児島水圏生物博物館の「鹿児島の魚図鑑プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とそ

の保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## 引用文献

- 林 公義. 2013. タカサゴイシモチ科. Pp.744-745, 1956-1957. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Cranbrook Institute of Science Bulletin (26): i-xi + 1-186.
- Koeda, K. 2017. Family Ambassidae. Pp. 77-78. Motomura, H., Alama, U. B., Muto, N., Babaran, R. and Ishikawa, S. (eds.). Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- Koeda, K., Hibino, Y., Yoshida, T., Kimura, Y., Miki, R., Kunishima, T., Sasaki, D., Furukawa, T., Sakurai, M., Eguchi, K., Suzuki, H., Inaba, T., Uejo, T., Tanaka, S., Fujisawa, M., Wada, H. and Uchiyama, T. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 宮原 一. 2009. タカサゴイシモチ科. P. 247. 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監). 日本の海水魚 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. and Harazaki, S. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1-183.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65-247. Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.). Fishes of Yaku-shima Island — A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 米沢俊彦. 2003. セスジタカサゴイシモチ. P. 155. 鹿児島県環境生活部環境保護科 (編). 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 — 鹿児島県レッドデータブック. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4): 31-75, pl. 1.